

令和2年度 中央区立明正幼稚園 外部評価報告書
評価委員：谷島 豊、押田 まり子、河野 祥多、樫本 美穂、広井 良典 報告書作成者：副園長 田原 雅代
評価時期 令和3年2月
<p>1 重点目標の評価</p> <p>(1) 重点目標1「主体性と協同性、創造力をはぐくむ教育活動の推進」について 幼児が主体的に遊びや生活に関わることができるように、教員が環境の設定、また、遊びや活動の進め方を工夫していることが伺える。また、体を動かして運動遊びができるような配慮や工夫が見受けられ、コロナ禍において運動不足、怪我の増加が話題になる中、大変意味があると考えられる。 保護者、教員ともに評価が高く、教育活動の充実とその成果が伺える。</p> <p>(2) 重点目標2「学びの基礎力をはぐくむ教育活動の推進」について 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点のために、従来の教育活動ができない大変さとともに、幼児にとって必要な経験を保障するために、教員が工夫して教育活動を進めていることが、幼稚園側からの報告により感じられた。 また、保護者の評価も高く、遊びを中心とした教育活動の中で幼児が多くのことを学び、身に付けていることが伺える。</p> <p>(3) 重点目標3「人と関わる力を育む教育活動の推進」について 公園や町中で見える幼児の姿、また、幼稚園側からの報告等を踏まえると、年齢に応じた人と関わる力を身に付けているように感じられる。しかしながら、3つの重点目標の中でこの項目のみ「改善を要する」「緊急に改善を要する」を選択した保護者がおり、教員・外部評価委員との結果との乖離が見られた。</p> <p>2 今後の改善に向けた意見 重点目標3の結果について、保護者と教員・外部評価委員との乖離が見られるため、その原因と対策を検討する必要があると思われる。コロナ禍の下、密を避けながら幼児に必要な人と関わる力を育む難しさと大切さがある。保護者と教員が協力し、幼児のよりよい成長を促すことを期待する。また、学級懇談会等において、評価の観点について意見交換する機会を設けることも有効であると考ええる。</p> <p>3 その他の意見 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、行事や幼稚園公開、保護者や地域の方の参加が制限された。感染状況に応じて制限が緩和され、保護者や地域の方が教育活動により関われるようになることで、幼稚園の教育方針、理念が一層浸透するものと思われる。</p>